

2018年9月 キューバ医療事情

下記情報は当地報道を抄訳したものです。詳しくは原文をご参照下さい。

【キューバ医療事情】

9月3日【CIBERCUBA】

“尊敬すべきミゲル・アンヘル・バルデス・ミエール医師が死去”

キューバ精神医学学会会長で国家老年医学学会会長であったミゲル・アンヘル・バルデス・ミエール教授が先週日曜日に83歳で死去された。アメイヘイラス病院精神科教授、相談役として傑出したキャリアを持つ彼は、2016年には労働英雄賞を国から授与されている。

9月5日【El Nuevo Herald】

“当局の無作為により危険なアフリカマイマイがキューバで増殖”

2013年宗教的儀式に用いるために、アフリカマイマイはナイジェリアからキューバに持ち込まれた。2014年にはハバナの農家から農作物にアフリカマイマイがいることが当局に報告されている。

世界で最も有害な生物のひとつと考えられるアフリカマイマイが政府が撲滅しないためキューバ中央部で急速に繁殖してしまった。アフリカマイマイは脳髄膜炎や腹部住血線虫症の原因となる寄生虫の宿主である。（*注：広東住血吸虫の中間宿主）殻の大きさは、長さ20cm、幅10cmを超え、植物の葉や家庭ゴミ、動物の死体を食べる。アフリカマイマイの粘液に接すると病気に感染する。そのため釣りの餌としてアフリカマイマイの体部を取り出す時は手袋をするか、すぐに石けんで手を洗わなくてはならないし、果物や野菜もよく洗わなくてはならない。このアフリカマイマイの危険性を誰も述べてこなかった。当局はアフリカマイマイを撲滅するために住民に警告を出しているが、繁殖力が強いいため容易ではない。

9月5日【CUBANET】

“元FARCメンバーはキューバで医学を学ぶ奨学金を得る”

2016年11月、FARC(Fuerzas Armadas Revolucionarias de Colombia):コロンビア革命軍(反政府左翼ゲリラ)とコロンビア政府が締結した平和協定の実施に対してキューバ政府はキューバで医学を学ぶためコロンビア政府側に100人、FARC側に100人、プログラムが終了する2022年まで合計1000人に毎年奨学金の供与を開始した。昨年3月に第1陣の189人がキューバに赴いており、本日第2陣として復員した元ゲリラを含む196人が医学を学ぶためにキューバに向かった。

9月9日【CIBERCUBA】

“腎臓癌に対する Heberferon の臨床試験を開始”

ステージ III と IV の腎臓癌患者に対して Heberferon の第 2 相臨床試験を開始予定。

9月16日【CIBERCUBA】

“ジンバブエで流行しているコレラを止めるためキューバは医師を任命”

両政府間の医療契約の一環でジンバブエで現在活動しているキューバ医療旅団 35 人に対して、キューバ政府は現在流行しているコレラと腸チフスを止めるために必要な活動を協力できるようにした。9月1日にジンバブエ政府よりコレラの流行が公表され、5日後には緊急事態宣言が発表されている。

9月23日【Radio Nuebitas】

“母子健康プログラム：キューバ革命の達成”

キューバにおける妊婦と子供の健康プログラム(PAMI)により、先天的奇形や重篤な疾患に苦しむ子供を防ぐための出生前検診や妊婦定期検診が専門医によって行われている。このプログラムによりキューバは2017年に1000人の出生に対して乳児死亡率は4人であった。特にヌエビタス市では乳児死亡率が1.78と先進国に匹敵する値であった。加えて出生後、キューバでは根絶している13疾患に対する予防接種を接種している。

9月26日【CUBADEBATE】

“最初のキューバ-米国合弁企業が設立”

本日、ピオクバファルマより最初のキューバ-米国合弁企業となる Innovative Immunotherapy Alliance 株式会社が設立されたと発表された。この企業はマリエル特区に拠点を置く予定。この新たな合弁企業は、キューバ分子免疫センターと米国のロズウエル・パーク癌センターの子会社として設立された。この会社で肺癌治療薬である CIMAVax-EGF の製薬を行い、最初数年は米国において新規治療薬の安全性と有効性を実証する臨床研究を行う予定。承認が得られれば、米国に輸出予定。